

建設発生土分析（土壌環境基準項目）の試料採取方法の一例

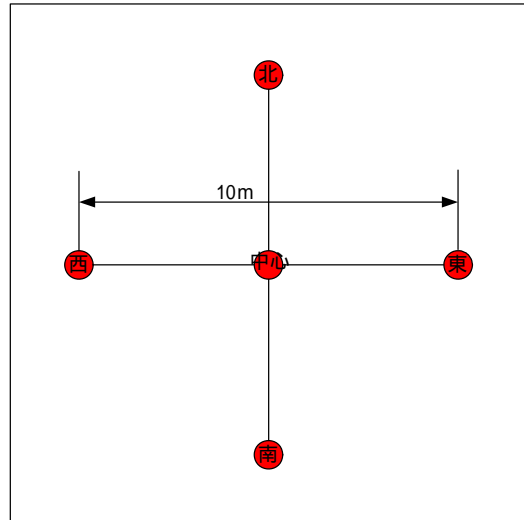
日本環境株式会社

1. 試料採取方法

5 地点混合法という手法を用いるため、1 検体につき、5 箇所から表層下約0.15m～0.30mの土壌を採取します。採取地点は図のようになります。

採取地点にはカラーコーン等、撮影時に採取箇所が一目で分かるものを置いて下さい。

また、採取間隔が分かるようにリボンロッド等で十の字をきって下さい。



取容器はガラ及びレキを除き以下の物でお願いします。

- ・ 東：ジップロック付ポリ袋（500～800 g）
- ・ 西：ジップロック付ポリ袋（500～800 g）
- ・ 南：ジップロック付ポリ袋（500～800 g）
- ・ 北：ジップロック付ポリ袋（500～800 g）
- ・ 中心：ジップロック付ポリ袋（500～800 g）及び硝子ビン（なるべく空隙が無いように）

なお、試料容器には試料名＋採取地点を記載して下さい。

2. 写真

黒板に記載する内容は右の内容でお願いします。

試料名：

特に決まりは有りませんので
適当につけて頂いてかまいませんが、黒板には試料名＋採取
地点（東、西、南、北、中心）
＋採取深度をそれぞれ記載し
て下さい。

内容：

それぞれの試料採取状況東、西、南、北、中心と全景と採取試料一式の計 7 種類
撮影して下さい。

黒板記載内容

件名：工事件名を記入します

採取住所：現場住所を記入します。

試料名：別記

内容：別記

採取日：試料を採取した日

採取者：採取した人の個人名

施工者：施工会社